
遙かなる想い ~詩集~

雁野文蔵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遙かなる想い ～詩集～

【Zコード】

Z3418S

【作者名】

雁野文蔵

【あらすじ】

人との巡り合いの中で生まれる様々な想い

そして、願い……

絆が深まることがあれば心の葛藤に苦しみもある

そういうふた様々な心情を詩にしてみました

* 某サイトに投稿した詩を詩集にしたもの

罪深き想いで振りされて

ねえ、どうして私の前に現れたの？
彼方は私を苦しめるだけなのに何故か惹かれしていく
まるで操られるように……
導かれるように……

導かれるように……

これは運命？
必然な出会いだったの？

どんなに抗つても逃れられない
彼方は私の中に入っていく
もし願いが叶うなら心の鍵を渡して
背負つた苦しみを受け止めるから
たとえ許されぬ愛だとしても心は彼方から離れない
離れられない

彼方の温もりに幸せを感じる
彼方の優しさが私を不幸にさせる

近くで遠い彼方が私の心を縛り続けて逃がさない
独りになりたくても縛れ合つ
高鳴る鼓動は抑えきれない
自由に羽ばたこうと藻掻いている

触れて欲しいから
抱きしめて欲しいから

その温もりを感じさせて
一生罪を背負つていくから傍にいて欲しい
もし願いが叶うなら心の鍵を渡して
背負つた苦しみを受け止めるから
たとえ許されぬ愛だとしても心は彼方から離れない
離れられない
離れたくない

午前零時のプラットホーム

心地よかつた彼方の優しさ

触れているだけで幸せを感じていた
思い出のアルバムを捲っていくように
頭に浮かんでくる一人だけの時間とき

彼方の部屋から漏れる窓明かり

ただ指輪を外した手をじっと見つめる
もう帰らないと決めたから

別れの言葉を告げずに黙つていいくわ

いつかこんな日がくる予感をしていた

彼方の優しさが私を駄目にする
甘えたままでいられない

だからサヨナラするわ

いつも絶やさない彼方の微笑み
それがもう耐え切れなくなつた
決意が鈍るから探さないで欲しい
もう一緒にいられないの

駅のホームに舞い落ちるぼたん雪
頬に伝う涙がポツリと落ちる

旅立ちの時が訪れて

もう泣かないって決めたのに目が霧む

いつかこんな日が訪れると恐れていた
私の気持ちに気がついて欲しかった
優しいだけじゃ駄目なの
だからサヨナラするわ

吹きさぶる木枯らしが背を押すように
最終電車に足が向かう
流れ落ちる涙を残して
彼方にサヨナラするわ

AGAIN ～あの夏の日のように～

真夏の日差しが眩しい海岸沿いの道
大空を優雅に舞う海鷗たちに誘^{いざな}われて
俺はアクセルを吹かして風を切る

バレンミラーに映るお前の長い黒髪の揺らめき
背中に感じる昂つた鼓動と肩に吹きかかる吐息
汗ばんだ胸を押し付けてギュッとしがみ付いていたね
約束の浜辺へと続く道

二人で眺めた夕暮れの太陽
一緒になろうと誓^{じき}い合つた言葉

お前との刻は永遠に続くものだと思つていた

振り返れば
お前がいた

振り返れば
はにかんだ笑顔があつた

誰もいない浜辺

夕暮れの向こうにお前を求めて
独り静かな波を眺めて思いを馳せる
手の平にあるのは俺の想いが詰まつた誓いのしるし
今は抜け殻のような悲しい記憶
涙に濡れた指輪が悲しい色に光り輝く
写真の中の笑顔はあの夏の日のまま変わらない
抱きしめた時の温もりを感じるぐらいに
遠き日の記憶の欠片よりも

こつまでも傍にいて欲しかった

もう一度感じたい

お前の温もりを

もう一度抱きしめたい

お前を感じていきたいから

二人の思い出の日々は今も色あせず
振り返るといつもお前がいた

あの夏の日のことは今も鮮明に浮かぶ
お前の笑顔から零れ落ちた涙

「幸せになろうね」と言つた言葉が何度も聞いえてくるよ
明日へと続く道の中

気がつけばいつもお前を背中に感じていた
タンデムシートは空けたまま
俺は独りバイクを走らせる
テールランプが行き交う月夜の道を

振り返つても

お前はもういない

振り返つても

お前の幻を追いかけるだけ

一人を引き裂いた運命の交差点

腕の中で消えていくお前の温もりと悲しい笑顔

微笑んで眠つているようだ

震える華奢な手を握り締めた記憶が俺の心をこつまでも苦しめる

お前を呼び止めていれば
失わずにすんだ

お前を呼び止めいれば
共に未来を歩めた

一人の時間が戻るのならもう離さない
「また明日ね」と言つたお前の手を引いて抱きしめよう
たとえ運命に逆らつてもいい
共に歩む未来を取り戻すためなら

お前に会えるのなら
俺は何処までも会いに行く

もし天国から連れ戻せるのなら
俺は羽ばたいて空を駆けるだろう

振り向くとお前がいるのなら
俺は何処までも走り続けよう

あの夏の日のように

Magical sweets Sunday

Let's try 張り切っちゃうぞ
今日は大好きな彼の誕生日
いつも通りのデートじゃないの
ありつたけの気持ちを込めて my heart

待ち焦がれた約束の日曜日

寝ぼけ眼でエプロン結び

今度は私からお返しのサプライズ

驚く顔を早く見ないと妄想が膨らむ
でもスイーツなんて作ったことないよ
何からしたらいいのか分かんない
レシピ読んだら頭がグルグル回っちゃう
フラフラ千鳥足でキッチンに立つても
彼のためにと気合をフル回転

No No No Nonono!

バター塗りすぎ砂糖を落とす
暴れて止まらないハンドミキサー
生地は焼きすぎ真っ黒コゲコゲ
ゲンナリ気分でその場にへたり込む

今度は上手く生地が焼けたかな
スポンジケーキが上手く切れないと

シロップの量つて何グラムなの?
生クリームが上手く泡立たないよ
でも出来映えよりも愛情で勝負
気持ちがこもってこそその手作りケーキ
恋の魔法が手助けをしてくれる
彼を想いながらラストスパート
あとは仕上げにイチゴを飾るだけ

No no no no non!

やつと出来たイチゴのショートケーキ
出来栄えの悪いショートケーキ
生クリームまみれの私の姿
気持ちだけが彼の元へ飛んでいく

Let, try 張り切っちゃうぞ

今度は私を綺麗にコーティート
特別なオシャレは今日だけよ
最高のラッピングで my heart

ケーキを家に忘れて取りに帰り
彼はいつまでも公園で待ちぼうけ
Magical heartで巧みに誤魔化し
私から手を繋ぐわ my ダーリン

ドキドキ気分で彼を見つめ Love heart

今からとつておきの魔法をかけてあげる
メロメロになつてもらつから覚悟してね

私の手作りイチゴのショートケーキ

Happy Birthday my ダーリン

イチゴ味のキスに心フワフワ F·j·y heart

これからもヨロシクね 好き 好き 大好き my ダーリン

「もれび

木漏れ日に照らされた並木道
涼やかなそよ風が優しく頬を撫でる
私の傍にはいつも彼方が寄り添つてくれていたね
肩を寄せ合つた温もり
出逢つた頃から変わらない微笑み
いつも私を癒してくれる

ねえ、10年後もこうして歩いてくれる?

いつまでも私の傍から離れないで
心の中で呟いた声が聞こえたかな
幸せなのに時々不安になってしまふ

思い出の並木道
未来への並木道

まるで私達への道しるべのよう

苦しいときも
悲しいときも
彼方と一緒にだから歩めたんだと

温かい木漏れ日が照らす中

小鳥達の囀りが心を和ませてくれる
肩を抱き寄せてきた手に温もりを感じて
目蓋を閉じて彼方にもたれる私

心のアルバムを開きながら
胸いっぱいの幸せを噛み締める

ねえ、私が年老いても抱きしめてくれる?
いつまでも変わらない彼方でいてね
添い遂げたいという想いは永遠にとわ
彼方とならどんな苦難も乗り越えられるわ

明日への並木道
どこまでも果てしなく

彼方と私だけの道しるべだね
辛いときも
嬉しいときも
いつも笑顔で傍にいてあげるから

見つめ合う二人に言葉はいらない
どんな時も
離れていても
私の心は彼方の傍にいるから
いつだって彼方を感じているから

MIDNIGHT FIGHTER

地鳴りのように響く歓声
熱い熱気が俺の歩を進める
客席から見えるお前の不安そうな表情に
かお
手を振つて応えた

野獣のように向かい合ひ一人の狼
四角いジャングルを照らすスポットライト
ゴングの鐘ときが鳴らされて
運命の刻が訪れる

MIDNIGHT FIGHTER

唸りをあげる俺の拳

MIDNIGHT FIGHTER

飛び散る汗を輝かせて

牙を持つ獣達の刹那
熱い熱気が闘志を掻き立てる
客席から聞こえるお前の悲鳴に似た叫びに
俺の心が震える

血しぶき舞い散るリング上
己のすべてを賭けた魂の咆哮
お前に誓つた言葉と共に

ただひたすら勝利をめざす

MIDNIGHT FIGHTER

燃え上がる命の炎

MIDNIGHT FIGHTER

熱い血潮が駆け巡る

MIDNIGHT FIGHTER

勝利をお前に捧げよ!

お前をこの手で抱きしめるために.....

Never Surrender

たとえ独りぼっちになつてもみんなが君を見守つている
悲しみを分かち合おうと支えてくれる
絶望に沈んでも這い上がって頑張る君を見たい
懸命に生きようとする君と共に歩んでいきたい

わあ、勇気を出して立ちあがらう
遠く離れていても心は通じ合つている
涙を拭つて今を精一杯生きよつ

Never Surrender 絆は永遠で

Never Surrender 繋がる心の輪

手を取り合ひ共に羽ばたこう

明日に向かつて羽ばたこう

思い出は色あせることなく決して消えはしない
目を瞑ればみんなの笑顔が見えるだろう
大空の向ひから君をいつも見守つてい
想いは明日を生きる糧になるのだから……

さあ、勇気を出して立ちあがれ
愛する人を想うなら歯を食いしばって立ち上がり
苦難を乗り越えて今を精一杯生きよう

Never Surrender 立ち向かう勇気

Never Surrender 挫けない心

想いを胸に羽ばたこう

明日に向かつて羽ばたこう

君の輝く笑顔をいつまでも見たい

Angel Wish（前書き）

この『Angel Wish』は某サイトで活躍されている友野亜紀さんの大ヒット作『Message』をヒントに綴りました。『Message』の原作者である友野さんに今回の掲載に関しての了承を得て、『Angel Wish』の著作権についても私にあるという言葉を頂戴しています。

それで二次創作には該当しないという判断を下し、今までと同様に某サイトへ投稿したままの状態にさせて頂きました。

これを読んで、もしも『Message』という作品に興味を持つて頂けたならば幸いです。

Angel Wish

もう迷わない
立ち止まつてどうするの
ありつけの想いを込めて
ハート型にチョコを流していく

遠くから眺めるだけじゃイヤ

一の足を踏んでばかりいた自分が情けない
明日は特別な日なんだから
めいっぱいの勇気を振り絞つて手渡そう

彼と向き合つ妄想ばかりが膨らんで
浮かんでくるのは彼の顔ばかり
手袋越しに伝わる温もりを夢見て
気持ちだけが先走る

もう止まらない
動き始めた恋心
私の想いが届けとばかりに
チョコを可愛くラッピング

明日はいよいよバレンタイン
ちゃんと気持ちを伝えて渡せるかな
なんて今更弱気になつてはダメ
意氣地なしの自分とはサヨナラするの

枕元に置いた手作りチョコレート

夢の中ではハッピーエンド

甘いチョコの味がするキス

どうかお願ひ叶つて

遠くに見える彼の笑顔

ドキドキと鼓動が高鳴るばかり

背中に隠した私の想い

どうかお願ひ伝わつて

目の前に彼がいる

神様お願ひ力を貸して

想いが詰まつた私のチョコ

どうかお願ひ受け取つて

私の気持ちを受け取つて

Angel Wish (後書き)

とりあえず、この詩をもつて完結とさせて頂きました。

あと一作だけ書き残した詩がありますが、それは二次創作に該当する為、こちらには掲載できないからです。

しばらくは小説をメインに活動していくので、しばらくは詩を綴ることはないと思います。

ですが今後また詩を綴るときがあると思いますので、その際にはまた読んで頂ければ幸いです。

最後までお付き合いしてくださった方々には心からお礼申し上げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3418s/>

遙かなる想い ~詩集~

2011年10月8日23時25分発行